

地方独立行政法人さんむ医療センター  
平成 27 事業年度の業務実績に関する評価結果

平成 28 年 8 月

地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会

# 目 次

## \*\*\* 年度評価の考え方 \*\*\*

〈評価の基本方針〉	1
〈年度評価の方法〉	1

## \*\*\* 平成 27 事業年度の業務実績に関する評価結果 \*\*\*

1. 全体評価	
(1) 評価結果	2
(2) 全体評価に当たって考慮した事項	2
(3) 評価に当たっての意見、指摘等	3
2. 大項目評価	
(1) 「第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する大項目評価	4
① 評価結果	4
② 判断理由	4
【大項目評価に当たり考慮した事項】	4
③ 評価に当たっての意見、指摘等	5
(2) 「第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項」に関する大項目評価	5
① 評価結果	5
② 判断理由	6
【大項目評価に当たり考慮した事項】	6
③ 評価に当たっての意見、指摘等	6
(3) 「第4 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画」に関する大項目評価	7
① 評価結果	7
② 判断理由	7
(4) 「第7 剰余金の使途」に関する大項目評価	7
① 評価結果	7
② 判断理由	7
(5) 「第8 料金に関する事項」に関する大項目評価	7
① 評価結果	7
② 判断理由	7
(6) 「第9 その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目評価	7
① 評価結果	7
② 判断理由	7
【大項目評価に当たり考慮した事項】	7
③ 評価に当たっての意見、指摘等	8
○地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会 委員名簿	9
○平成 27 年度地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会開催経過	9

## \*\*\* 年度評価の考え方 \*\*\*

地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会（以下「評価委員会」という。）では、平成 22 年 4 月 1 日に設立された地方独立行政法人さんむ医療センター（以下「さんむ医療センター」という。）について、法人化して 6 年目の平成 27 事業年度の業務実績に関する評価を行った。

### 〈評価の基本方針〉

- (1) 中期目標・中期計画の達成状況等からさんむ医療センターの業務運営等に関して多面的な観点から総合的に評価を行い、さんむ医療センター運営の質的向上に資するものとする。
- (2) 評価を通して、中期目標・中期計画の達成状況や取り組み状況を市民に分かりやすく示すものとする。
- (3) 業務運営の改善や効率化等の特色ある取り組みや様々な工夫を積極的に評価するものとする。
- (4) さんむ医療センターを取り巻く環境の変化等を踏まえ、必要に応じて評価の方法を見直すものとする。

### 〈年度評価の方法〉

当該年度計画に定めた事項ごとに行う「項目別評価」と業務実績全体の進捗状況について行う「全体評価」の 2 つを併せて行った。

#### (1) 項目別評価の方法

項目別評価は、以下の評価委員会による、①小項目評価、②大項目評価の手順で行った。

##### ① 小項目評価

評価委員会において、法人の自己評価及び目標設定の妥当性などを総合的に検証し、年度計画の小項目ごとの進捗状況について評価を行った。

評価委員会による評価と法人の自己評価が異なる場合には、評価委員会が評価の判断理由等を示した。また、必要に応じて特記すべき点などについてコメントを付した。

##### ② 大項目評価

評価委員会において、小項目評価の結果、特記事項の記載内容等を考慮し、大項目ごとの進捗状況について評価を行った。

#### (2) 全体評価の方法

① 評価委員会において、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の全体的な進捗状況について、記述式による評価を行った。

② 全体評価においては、地方独立行政法人化を契機とした病院改革の取り組み（さんむ医療センター運営における自律性・機動性の発揮、財務内容の改善、病院運営の透明性の向上など）を積極的に評価した。

## \*\*\* 平成 27 事業年度の業務実績に関する評価結果 \*\*\*

### 1. 全体評価

#### (1) 評価結果

地方独立行政法人さんむ医療センターは、平成 22 年 4 月 1 日に地方独立行政法人として設立され 6 年目の決算を迎えました。また、平成 26 年 4 月より第 2 期（期間 3 年間）の中期目標及び中期計画の 2 年目となり、地域に根差した地方独立行政法人病院としてより一層の成長が求められています。

平成 27 事業年度の業務実績については、年度計画で掲げている以下 6 つの大項目

- ① 「第 2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」
- ② 「第 3 業務運営の改善及び効率化に関する事項」
- ③ 「第 4 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画」
- ④ 「第 7 剰余金の使途」
- ⑤ 「第 8 料金に関する事項」
- ⑥ 「第 9 その他業務運営に関する重要事項」

の評価において、中期計画目標値すべての達成には至らなかったが厳しい医療環境下で経営の安定に努力したことを認め、A 評価 2 件、B 評価 4 件とした。

#### (2) 全体評価に当たって考慮した事項

① 「第 2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」の大項目においては、診療体制の充実と強化として、年度中に皮膚科常勤医 1 名と産婦人科医 1 名を確保したこと、山武市と連携した医師・看護学生に対する奨学金貸付制度による人材確保に努めたこと（貸付者 医学生 3 名、看護学生 4 名）、更に再雇用制度や人事評価制度の活用により看護師離職率が 3.0% と低い値であったこと、医療職の専門性及び医療技術の向上のため、研修計画に基づき積極的に研修の支援を行ったことがあげられる。一方、常勤医師は、2 名増員したが 2 名の減員もあり、平成 27 年度末の常勤医師数は 24 名で目標値の 25 名には達しなく厳しい状況であること、また看護師においても人数が目標値に達しなかったことなどから課題があるが、サービスの向上と経営の効率化等に積極的な取り組みを行い、患者及び住民の医療ニーズに対し最大限に応え良好な業務結果を残したことにより **B 評価** とした。

② 「第 3 業務運営の改善及び効率化に関する事項」の大項目において、評価すべき内容として、DPC 並びに第 3 期中期計画モニタリング等業務において経営コン

サルタントと連携のもと経営管理機能の強化を図りその効果が現われていること、平成27年8月から看護基準が10対1から7対1に移行したこと、回復期リハビリテーション病棟増床並びに緩和ケア病棟の病床利用率の向上を図ったこと、地域包括ケア病棟の検討など地域医療機能の拡充が認められる。一方、人件費比率が高いこと、入院患者数が目標に達していないことがあるがDPC機能評価係数の向上が見られることを踏まえると、公的病院としての役割を果たしていることなどからB評価とした。

③ 特筆すべき取り組み

- ア 平成28年1月から産婦人科医1名を確保し2名体制としたことにより、年間分娩数が前年の151件から196件に増加したこと、更に次年度に向けた医療体制の整備に努力したこと。
- イ 地域医療機関との連携に努めて救急医療を実施し、厳しい医療体制の中で前年度実績を上回ったこと。
- ウ 地域医療連携の推進の評価数値として紹介・逆紹介率が前年度数値を上回るとともに年度計画目標を上回ったこと。
- エ 看護師及び医療技術職員の人材確保のため、積極的に看護実習、看護体験学習を行ったこと。
- オ 研修計画に基づき積極的に研修の支援を実施し、効果が認められること。
- カ 看護師の人材確保に努め、離職率3.0%（前年6.8%）であったこと並びに認定看護師の育成に努めたこと。
- キ 回復期リハビリテーション病棟並びに緩和ケア病棟の充実が認められること。「地域連携クリティカルパス（在宅緩和ケア）」対象機関として登録を行い、運用を行っていること。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- ① 職員の就労環境（体制）の整備については、改善に向けて具体的な取り組みに努めること。
- ② 内科医師の確保に努めること。
- ③ 回復期リハビリテーション診療、緩和ケア診療及び地域包括ケア病棟の計画的な取り組みに努め、医療収益の向上に努めること。
- ④ 公的病院としてどのくらい役割を果たしたかが重要であり、人件費比率だけの評価でなく全体として病院機能評価を重視し、その結果を評価することが適当である。
- ⑤ 人間ドックの受診者を増やすよう努めること。
- ⑥ 引き続き、二次救急医療輪番体制を担い地域の特性に配慮した医療に努めること。
- ⑦ 損益については前年に引き続き2億1,219万9,388円の黒字となり、経営状況は概ね順調である。

## 2. 大項目評価

(1) 「第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」に関する大項目評価

① 評価結果

**B評価**

② 判断理由

小項目の集計結果（《 第2表 小項目評価の集計結果 》参照）では、B評価となる。また、下記の【 大項目評価に当たり考慮した事項 】で示しているように、診療体制の整備と地域医療連携の推進に努力したこと、救急医療の充実、医療水準の向上、患者サービスの一層の向上、安心して信頼できる良質な医療の提供などの成果を踏まえて総合的に評価し、B評価が妥当であると判断した。

### 《 第1表 大項目の評価方法 》

大項目評価は、小項目評価の結果、特記事項等の内容を考慮し、大項目ごとに中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況について、次の4段階により評価する。

- A：中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおりに進んでいる
- B：中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに進んでいる
- C：中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている
- D：中期目標・中期計画の達成のためには改善事項あり

### 【 大項目評価に当たり考慮した事項 】

※ 小項目評価がB評価19件、C評価1件であった。

(以下、〔項目番号：大項目-中項目-小項目〕の番号である。)

ア 診療体制の整備〔項目番号：第2-1-(1)〕

回復リハビリテーション病床の増床を図ったこと、年度中に皮膚科常勤医1名と産婦人科医1名を確保したが看護師の確保と併せ目標数値を下回ったこと。看護師の離職率が再雇用制度の活用や人事評価制度など労働環境の改善を図り3.0%と低かったこと。

イ 医療職の専門性及び医療技術の向上〔項目番号：第2-2-(2)〕

研修計画に基づき積極的に研修の支援を行い専門的分野での資格取得を促進し、「自己啓発休業に関する規定」を制定したこと。認定看護師履修にかかる費用等についての奨学金制度を活用し認定看護師5名を確保した。

ウ 地域医療連携の推進〔項目番号：第2-2-(3)〕

紹介・逆紹介率については、平成27年度目標数値を上回ったこと。また山武地区在宅緩和ケアネットワークに協力機関として参加し、近隣の診療所、訪問看護ステーション、薬局、ケアマネージャー等と積極的に連携し、緩和ケア外来の患者を24時間体制で支援したこと。

エ 安全対策の徹底 [項目番号：第2-4-(1)]

チーム医療を推進する上でインシデントレポートが全体に定着して他部署との連携や協働の重要性が認識できるようになり、全体で安全対策の徹底が推進されていること。

《 第2表 小項目評価の集計結果 》

評価対象項目数 20 項目に対し、B評価(年度計画をほぼ順調に実施している)が 19 項目であり、割合は 19/20 と 9 割以上を占めることから、B評価(中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに進んでいる)とした。

小項目評価区分 中項目	評価対象項目数	A:年度計画以上に実施している	B:年度計画をほぼ順調に実施している	C:年度計画を十分に実施できていない	D:年度計画を大幅に下回っている
1 地域の特性に配慮した医療の確立と提供	3		2	1	
2 医療水準の向上	4		4		
3 患者サービスの一層の向上	5		5		
4 安心して信頼できる良質な医療の提供	4		4		
5 市の医療施策推進における役割	4		4		
合計	20		19	1	

③ 評価に当たっての意見、指摘等

ア 医師・看護師等の人的資源を確保出来るかが課題である。内科医の充実が必要である。

イ 看護師の離職率が 3.0%と低く、引き続き働きやすい魅力ある病院であることを存続すること。

ウ 安心・安全な医療を地域に提供すること。

(2) 「第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項」に関する大項目評価

① 評価結果

B評価

## ② 判断理由

小項目の集計結果（《 第3表 小項目評価の集計結果 》参照）では、B評価となる。また、下記の【 大項目評価に当たり考慮した事項 】で示しているように、地方独立行政法人としての運営管理体制の確立、効率的かつ弾力的な業務運営などの成果を踏まえて総合的に評価し、B評価が妥当であると判断した。

### 【 大項目評価に当たり考慮した事項 】

※ 小項目評価がA評価の項目は、次の1件であった。

（以下、〔項目番号：大項目-中項目-小項目〕の番号である。）

ア 収入の確保と費用の節減〔項目番号：第3-2-（8）〕

回復リハビリテーション病棟の病床数を4床増床し、緩和ケア病棟は病床利用率を向上させて患者数の増加に対応したこと、一般病棟に専任薬剤師を配置して病棟薬剤業務実施加算の施設基準届出を行い収益の増収を図っていること、また、後発医薬品の切替えについては、薬事委員会が中心となり積極的に切替えを行い費用の削減に努めたこと。

○ 後発医薬品の適用率

・採用品目割合 33.0%（目標値 28.0%）

・数量ベース 91.0%（目標値 80.0%）

### 《 第3表 小項目評価の集計結果 》

評価対象項目数9項目に対し、B評価（年度計画をほぼ順調に実施している）が8項目であり、割合は8/9と8割以上を占めることから、B評価（中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに進んでいる）とした。

中項目 \ 小項目評価区分	評価対象項目数	A:年度計画以上に実施している	B:年度計画をほぼ順調に実施している	C:年度計画を十分に実施できていない	D:年度計画を大幅に下回っている
1 地方独立行政法人としての運営管理体制の持続的な発展	1		1		
2 効率的かつ効果的な業務運営	8	1	7		
合計	9	1	8		

## ③ 評価に当たっての意見、指摘等

ア 事務職の体制が十分に整っていない。今後の業務運営においてプロパー職員の育成が急務である。



- イ 人件費比率については、目標を達成できてないが、公的病院としてどのくらい役割を果たしたかが重要であり、人件費比率のみの評価でなく全体として病院機能評価を重視し、その高さを評価する。
- ウ DPC機能評価係数の向上が見られる。
- エ 今後、新人看護師教育の充実を図る必要がある。
- オ 費用の節減に引き続き努めること。

(3) 「第4 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画」に関する大項目評価

① 評価結果

A評価

② 判断理由

財務内容の改善が認められること。

(4) 「第7 剰余金の使途」に関する大項目評価

① 評価結果

A評価

② 判断理由

剰余金の使途を明確にしている。

(5) 「第8 料金に関する事項」に関する大項目評価

① 評価結果

B評価

② 判断理由

使用料及び手数料に規定に基づき適正に執行されている。

(6) 「第9 その他業務運営に関する重要事項」に関する大項目評価

① 評価結果

B評価

② 判断理由

小項目の集計結果（《 第4表 小項目評価の集計結果 》参照）では、B評価となる。また、下記の【 大項目評価に当たり考慮した事項 】で示しているように、施設整備の推進の成果を踏まえて総合的に評価し、B評価が妥当であると判断した。

**【 大項目評価に当たり考慮した事項 】**

- ※ 中・小項目評価がB評価の項目は、次の2件であった。  
(以下、[項目番号：大項目-中項目]の番号である。)

- ア 施設整備の推進〔項目番号：第9-1〕  
介護老人保健施設及び病児保育施設（山武市と協力のもと地域の子育て支援策として設置）を検討中
- イ 病院機能の拡充〔項目番号：第9-2〕  
地域包括ケア病棟について、平成28年度開設に向け準備を進めていること。医療介護総合確保推進法に基づく地域医療の在り方の検討を進めていること。

《 第4表 小項目評価の集計結果 》

評価対象項目数2項目に対し、B評価（年度計画をほぼ順調に実施している）が2項目であり、割合は2／2と全てを占めることから、B評価（中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画どおりに進んでいる）とした。

中項目 \ 小項目評価区分	評価対象項目数	A:年度計画以上に実施している	B:年度計画をほぼ順調に実施している	C:年度計画を十分に実施できていない	D:年度計画を大幅に下回っている
1 施設整備の推進	1		1		
2 病院機能の拡充	1		1		
合計	2		2		

③ 評価に当たっての意見、指摘等

- ア 今後1年間、医療介護総合確保推進法の主旨である他の医療機関との機能連携に努力すること。
- イ 地域包括ケア病棟設立に努められたい。

○地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会 委員名簿

区分	氏名	役職等
委員長	村上信乃	地方独立行政法人 総合病院 国保旭中央病院 名誉院長
副委員長	長隆	監査法人 長隆事務所 代表
委員	伊藤よしみ	山武市三師会 会長
委員	加藤誠	成田赤十字病院 院長
委員	亀田信介	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 院長
委員	宍倉弘康	山武市議会 議長
委員	松原久裕	千葉大学 大学院医学研究院 教授 医学部附属病院 副院長
委員	水田宗子	学校法人城西大学 理事長

(敬称略、委員は五十音順)

○平成28年度地方独立行政法人さんむ医療センター評価委員会開催経過

日程	審議議題
<p>【第1回】</p> <p>平成28年7月20日(水)</p> <p>山武市役所 第5会議室</p>	<p>① 地方独立行政法人さんむ医療センターにおける平成27事業年度の業務実績に関する評価及び財務諸表への意見について</p> <p>② 地方独立行政法人さんむ医療センター第3期中期目標〔平成29～31年度〕に係る意見について</p>